

韓日発掘調査交流に参加して

私は韓日共同「発掘調査交流協約書」にもとづいて、2010年5月17日から7月2日までの47日間、奈文研が実施している発掘調査に参加しました。

交流期間中には、藤原宮朝堂院地区と平城宮東院地区の発掘現場で調査をおこないました。私は現在、慶州で新羅王京の発掘調査を担当している関係から、近い時期に造営された藤原京と平城京について関心を持っていました。そのため、これらの発掘調査に参加できたことは非常に有益な経験でした。

日本での発掘調査で最も印象的だったのは、経歴と年齢を考慮した多様なチーム構成と役割分担、年間を通して空白なく進行する調査スケジュールでした。我々の研究所に比べはるかに構造的な調査運営体制は、奈文研において良質な調査成果を得ている基盤になっているようで、これは我々の研究所でも見習うべき点だと感じました。また、藤原宮の現場では、調査担当者以外にも様々な研究員が随時現場を訪れて調査内容について意見交換し討論しており、その姿勢は良い勉強になり、研究所らしい研究所の姿について再び考えるきっかけになりました。その他、周辺遺跡への踏査では、日本の遺跡の性格や復原整備事例を調査することができ、深い感銘を受けました。

47日間の短い日程で、二地域の発掘調査と数十箇所¹の遺跡を見学することができたのは、ひとえに奈文研の方々の積極的なご助力のおかげでした。このような良い機会を与えて下さった奈文研の皆様²に心から感謝します。そして、5年あまりにわたり積み上げてきた二つの研究所の交流が今後も続き、学問的に良い成果が上がることを望んでいます。

(国立慶州文化財研究所 李 熙濬 翻訳 庄田 慎矢)



藤原宮朝堂院朝庭での実測作業